様式第５号

令和３年度　学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	107	学 校 名	御殿場特別支援学校	記 載 者	田渕　尚子

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評　価	意見
ア	**小中高 12 年間のつながりを見える化**	◎将来を見据え、「つなぐ」「つなげる」ように個別の指導計画を作成し、指導できている。 ・個別の指導計画に掲げた目標について、個々の育ちや学びの履歴を踏まえ前後をつなげた視点で語ることができる。 ・前学年、学部の指導を把握したり、将来の姿をイメージしたりしながら、個に合った目標を立てて指導に取り組むことができる。	A	A	・キャリアパスポート活用について、学んだことを自分で記録しながら振り返ることはとても大切なことと思う。小学校からの活用はなかなか難しそうに思えるがぜひ取り組んでいただきたい。
	主体的・対話的で深い学びのある授業づくり（３年間のまとめ）	・助言者や参観者からのアドバイスをもとに、授業改善に努めている。 ・児童生徒の分かり方や学び方に沿った教材研究に取り組み、授業で活用している。 ・ICT 機器を活用した授業づくり、児童生徒の有効活用を推進している。	A	A	
	専門性の向上（実態把握、支援方法）	・学習会の内容が指導に活きている。 ・発達検査の活用方法についてのアドバイスを活かしている。 ・自立活動室の教材が、校内で活用されている。	A	A	
イ	新しい生活様式も踏まえた環境設定	・安心して授業に参加したり、話し合いを行ったりする環境を設定できている。 ・感染予防対策（３密回避、手洗い、手指消毒、換気等）を習慣化、徹底している。 ・給食を安全に食べることができている。	A	A	・学年、学級という組織的取り組みを重点とした評価なのか、その指導チームの一員としての立場で自己評価しているのか、今一つわかりにくいが。 ・コロナで大変な一年間でしたが安心して学べるよう工夫されていた。

様式第５号

	命を守る 安全教育	・避難方法や自分の役割に沿って、緊急時には動ける準備ができ(た)ている。 ・児童生徒が自分の命を守るための適切な判断、行動（ハンカチで口を覆ったり、机の下に入ったり等）をとれるよう支援できた。 ・児童生徒が身近な危険から自分の身を守る行動意識が高まるよう支援できた ・定期的な安全点検により、日頃から安全環境を意識して指導している。 ・発作等の緊急時における対応方法に沿って、動ける準備ができ(た)ている。 ・生徒はスマホ等の使い方のマナーを身につけ、安全に生活できている。	A	A	・作業所でも個々の障害状態により皆同じ避難方法が難しく理解や判断が遅れてしまうので、日頃から防災に対する意識を持つことが大事と思う。 ・校内の評価がとても高い（100%が多い）ので強い意識で取り組まれたものと受け止める。「命」に係わることゆえにその全校、全職員あげての「安全教育」なのでこれをテーマにした「学校教育実践」のまとめ（論文等）があってもよいのかと思った。 ・スマホは高等部では必須学習ではないか。
	人を大切にする心と体の教育	・道徳授業の実践資料(一覧)を作成できた。 ・児童生徒の手本となる人権教育を自ら推進している。 ・安全、安心の中で、健康な体つくりができている。 ・生活年齢・発達段階に応じた保健指導（性教育を含む）を実践できている。 ・児童生徒は、食育に興味や意識を高めて授業に参加できている。 ・児童生徒が色々な本に触れ、興味を持って見たり、自分から本を読んだりする機会になっている。 ・児童生徒が自分の作品を作ることを楽しみにする機会になっている。 ・児童生徒が自分の作品や他者の作品を見たりすることを楽しむ機会になっている。	A	A	・道徳の指導計画等の学部の格差は「小中高 12 年間のつながり」を考えるとやはりもう少し踏み込む必要を感じる。「心の成長」はすべてを生活根底とするように思う。 ・生活年齢・発達段階に応じた保健指導は本当に必要だと思う。

様式第５号

ウ	社会に開かれた学校づくり	・イベント参加により児童生徒が達成感をもつことができたと感じることができる。 ・新しい地域資源を拡げ、関わる学習に取り組むことができる。	A	A	・コロナ禍で行動制限がある生活（教育）だったと思うが、その中で学年・学校行事ができていることをうれしく思う。その行事の中での学びが大きいと考える。 ・コロナ禍により、イベントや行事の参加ができない中、地域とのつながりによるいろいろな取組が実現できたことは生徒達にとって貴重な経験だったと思う。
	共生教育の充実	・交流校と目的を共有して、お互いの児童生徒にとって充実した交流になってきている。 ・交流籍を希望した児童生徒の交流が実現できた。 ・学校 HP での、発信内容が充実したものになっている。	A	A	・居住地校交流の拡充を期待する。
	地域への役割の充実	・中学校、高等学校からの依頼に応じ必要なサポートができている。 ・児童生徒と福祉や SC とを結ぶ等、校内での支援は充実している。 ・HP を活用して、センター的機能の情報発信ができている ・学校紹介ビデオを作成し、職員全員が地域へ紹介できる準備ができた。	A	A	・義務教育学校の特別支援学級は、一人の担任が複数の子どもたちの指導をする形である。補助者配置も難しい現実で、指導方法に悩んでいる。「特別支援教育」のくくりで、特支学校と特支学級のさらなる学びの向上を期待する。 ・地元富士岡地区として互いに協力して可能な事業を進めていきましょう。
エ	**教職員が児童生徒、自分の生活や家族を守るコンプライアンス意識の向上**	・授業準備の時間や児童生徒のことを語り合う時間が昨年度より増えている。 ・お互いに「あいさつ」「報連相」ができる職場の雰囲気が構築されている。 ・飲酒運転０ 個人情報漏洩０　体罰０ スクールセクハラ０	A	A	・「多忙化解消」の業務改善がさらに徹底され、先生方に子どもたちとの関わりの時間が増えることを願っている。 ・不祥事０ということはとても素晴らしいと思う。今後も０記録を延ばしていただきたい。
	「学び続ける教職員」の育成	・OJT やミニ学習会を専門性の向上に役立てている。	A	A	・新しく学べる専門性の向上等いろいろと工夫されていた。